

Newsletter



Institute for International Monetary Affairs
公益財団法人 国際通貨研究所

立ち上げ3年目を迎えたアジアインフラ投資銀行（AIIB） の現状と課題

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 上席研究員
梅原 直樹
umehara@iima.or.jp

1. 第3回年次総会の概要

アジアインフラ投資銀行（AIIB）の第3回年次総会が本年（2018年）6月、インド・ムンバイで開催された。AIIBは2016年1月に業務開始となった多国間金融機関（Multilateral Financial Institutions、MFIs）である¹。アジアには膨大なインフラ需要があり、これを支える資金が圧倒的に不足しているなかで、このギャップを埋め、アジア各国及び地域全体の経済成長を実現させることが、AIIBが立ち上げられた理由である。この考えは、アジア開発銀行（ADB）がかねてより主張していたものであったが、AIIBの創設に強い追い風となったのは、中国の習近平国家主席が「一帯一路」構想を強力に打ち出したことであった²。

中国財政部（財務省）出身で、かつてアジア開発銀行（ADB）の副総裁を務め、AIIB

¹ 金総裁はAIIBに関して国際開発金融機関（Multilateral Development Bank、MDB）という言葉を使わず、多国間金融機関（Multilateral Financial Institution、MFI）という言葉を用いる。これは金総裁自身が在籍していた世界銀行やアジア開発銀行などのMDBsが現在、貧困問題に重きを置いているなかで、AIIBはこれと一線を画しており、アジア地域の経済成長に重きを置いている。金総裁はこの新しい特徴をもつ国際金融機関を既存のMDBsと区別するために、あえてMFIという言葉を用いているとみられる。

² 「一帯一路」構想は2013年後半より習近平中国国家主席の海外演説で初披露され、その時、AIIBのアイデアも同時に提示された。AIIBは、2014年11月のAPEC首脳会議の際に22カ国が創設に向けた覚書に署名し、これを受けて立ち上げに向けた準備が本格的に開始された。

の初代総裁に就任した金立群氏は、第3回総会参加者向けセミナーで、AIIBは、MFIsとしてこの2年半で急速な進歩を遂げていると述べ、その順調な成長ぶりを強調した³。2016年に業務を開始したばかりのAIIBは、2020年までの5年間をスタートアップ段階と位置づけている⁴。“Lean, Clean, Green”を中心価値に据えて66カ国が正式メンバーとして加盟したAIIBは、今、まだ基礎固めの時期にある。最も新しく、特徴があり、世界から評価されるMFIとなることを、経営陣は目標としている。

今般の第3回年次総会のホスト国は前年、韓国・済州島での総会において、インド・ムンバイに決定した⁵。インドは、中国がAIIB創設を唱道した時にこれに呼応した22カ国の1カ国であり、創設メンバー57カ国のなかでもコア・メンバーといえる。また、AIIBにおける議決権をみると、インドは、圧倒的な存在の中国(21.6%)に次いで、第2位(7.7%)となっている⁶。インドは13億人を超す大国であるが、インフラ整備には大きな課題を抱えていた。そのようなインドに対して、第3回総会の2018年6月末時点でAIIBの累計プロジェクト承認額は、合計13億ドルに上り、全体のほぼ4分の1を占めている。インドは目下、AIIBの最大の受益国となっているが、この状況が今後も続くか否かは不透明である。

2. 出資承認済みプロジェクトの概観

AIIBのウェブサイトには同行の承認済みプロジェクトが1件ずつ掲載されている⁷。これをまとめたのが巻末の付表1であるが、以下はその概要である。

(1) 全体状況(件数および金額)

承認案件の件数を年度別にみると、2016年(初年度)は8件、2017年(2年目)は15件、2018年(3年目、上半期のみ)は5件となっている。合わせると28件である⁸。金額では、2016年は17億ドル、2017年は26億ドル、2018年上半期は12億ドルで、合計54億ドルとなっている。金総裁によれば2018年下半期に25億から35億ドルの新

³ 2018年6月25日、産経ニュース <https://www.sankei.com/world/news/180625/wor1806250020-n1.html>

⁴ 同行作成プレゼンテーション資料によれば、2016年から2020年までの5年間がスタートアップ段階、2021年から2027年までの7年間が成長段階と位置づけられている。”Asian Infrastructure Investment Bank, Update July 2018” P8. <https://www.aiib.org/en/about-aiib/basic-documents/download/AIIB-presentation.pdf>

⁵ 次回の第4回は2019年7月、ルクセンブルクでの開催が決定している。

⁶ 3位以下は3位：ロシア(6.0%)、4位：ドイツ(4.2%、域外)、5位：韓国(3.5%)、6位：オーストラリア(3.5%)、7位：フランス(3.2%、域外)、8位：インドネシア(3.2%)、9位：英国(2.9%、域外国)、10位トルコ(2.5%)と続く。

⁷ 承認済み個別プロジェクトは次を参照。 <https://www.aiib.org/en/projects/approved/index.html>

⁸ 2018年に入ってから初年度に承認されたオマーン向けの鉄道案件(36億ドル)がホームページから削除された。何らかの理由でオマーン側が案件を取り下げられたものとみられる。

たな案件承認を予定しており、2018 年末には累計 80 億ドルに達するとみられる。

(2) 国別、セクター（分野）別状況

国別にみた件数は、インドが 7 件で全体の 4 分の 1 を占め、インドネシア 4 件、バングラデシュ 3 件と続く。金額も、インドが累計 13 億ドルで全体の 4 分の 1 を占め、最大である。これにインドネシア（7 億ドル）、トルコ（6 億ドル）、アゼルバイジャン（6 億ドル）が続くが、トルコとアゼルバイジャンのプロジェクト（ガス貯蔵プロジェクト、ガスパイプラインプロジェクト）は 1 件当たり金額がともに最大規模である。

AIIB も他の国際開発金融機関（Multilateral Development Banks、MDBs）と同様、投融资案件をエネルギー、交通運輸、都市整備、上下水道、マルチセクター、通信などの分野に分けているが、これまでの承認案件では、エネルギー分野が 12 件、交通運輸分野が 7 件と、この 2 分野で全体の 3 分の 2 を占める。金額ではエネルギー分野が 47%、交通運輸分野が 24%で、この 2 分野で 7 割を占める。

(3) 取り上げ形態

取り上げ形態別では、世界銀行グループ（WB）や ADB など既存の MDBs との協調案件と AIIB の単独案件に分けられるが、協調案件は 21 件で、金額は 40 億ドルである。他方、単独案件は 7 件、14 億ドルであり、全体の 4 分の 3 が既存の MDBs への相乗り案件となっている。スタートアップ段階の 3 年目となった AIIB は、環境・社会への影響に関する調査も含めれば、独自のプロジェクト形成を行うには人的なキャパシティが不足しており、設立から 2 年半という時間も全く十分ではない。しかし、案件積み上げを急ぐ AIIB は、2017 年に世界の既存 MDBs に協力を仰ぎ、既存 MDBs 側をもこれに応えた結果⁹、今般のような状況になっている。今後も当面は、既存 MDBs との協調案件を織り交ぜて、業務実績を積んでいくことになると思われる。

ちなみに、AIIB の単独案件は、オマーンの港湾向けと通信向け案件（計 2 件）、バングラデシュの発電向けと送配電向け案件（計 2 件）、インド・グジャラート州の道路と国家インフラファンド向け投資案件（計 2 件）、中国のエネルギー環境関連案件（1 件）となっている。これらは皆、AIIB にとって審査ハードルが比較的低かったとみられる。

⁹ ”Asian Infrastructure Investment Bank: As a new comer in the society of Multilateral Development Banks”（英文）、IIMA, Newsletter No.7, 2017/8/17, PP14-15 を参照。 https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_7_e.pdf なお、日本政府も ADB 等を通じて、間接的に AIIB の立ち上げを支援している形になっている。例えば、AIIB 第 3 回総会には ADB、AMRO（ASEAN+3 Macroeconomic Research Office）、Credit Guarantee and Investment Facility から日本人スタッフがオブザーバー参加している。

(4) 今後の審査予定案件¹⁰

2018年7月末時点では、24件が今後の承認審査予定案件として、ホームページに掲載されている。国別にみると、インドとスリランカがともに5件と最多であり、これにパキスタン3件、ネパール2件、バングラデシュの1件を含めると、南アジア地域向けの案件が全体の3分の2を占める格好だ。その他では、中東・中央アジア・コーカサス地域が計6件（トルコ2件、ウズベキスタン2件、グルジア1件、エジプト1件）で、東南アジアは、インドネシアとラオスが1件ずつとなっている。今後、どのような地域の、どのような分野の案件が増えるかフォローして行く必要がある。

(5) これまでの案件採上げと今後の展望についての考察

上記のように、AIIBの投融資はインド向けが全体の4分の1を占める。インドは大国であり、これまでインフラ投資が不十分であったことから、その意味では当然の結果である。立ち上げ期にあるAIIBにとって、なるべく早く実績を重ねたいとの経営の要請があるなかで、インドには、調査が進んだ、比較的成熟した案件が多く存在していたという事情もあったと思われる。さらにインドは、AIIBの2番目の出資国であり、総会開催地に名乗りを上げており、AIIBの投融資を担当する副総裁がインド・グジャラート州出身であったことが追い風となった可能性もある。しかしながら、AIIBが今後ともインド案件ばかりを突出させるわけにはいかない。正式加盟国は66カ国を数え、加盟を控える国も21カ国ある。これまでの承認案件は12カ国にとどまったが、今後はさらに拡大する必要がある。加盟済みの途上国はAIIBからの早期の投融資を期待しており、それが実現しなければ早晩、不満が噴出するおそれがある。

インドの隣国パキスタンは、中国と「全天候型¹¹」の戦略的外交関係を結び、AIIBへの期待も高い。AIIBもこれに応え、エネルギー及び交通運輸セクターで合計2件、4億ドルのプロジェクトを承認し¹²、今後の審査予定案件も4件控える¹³。しかし、パキスタンは「一帯一路」構想の枠組みの中で、「中国パキスタン経済回廊（CPEC）」という総合インフラ開発計画を進めており¹⁴、最近では外貨繰りが苦しくなっているとみられ

¹⁰ 詳細は次を参照。 <https://www.aiib.org/en/projects/proposed/index.html>

¹¹ 外的環境の変化に左右されないという意味で使われており、中国が結ぶ外交パートナーシップの中で、最上位の協力関係を示す。

¹² 2件ともMDBsとの協調融資案件。

¹³ そのうち2件がMDBsとの協調、2件が単独の案件。

¹⁴ この開発計画を支援する金融機関には、中国輸出入銀行と中国国家開発銀行の2行の政策性銀行があり、さらにシルクロード基金、中国の大手国有商業銀行が控えており、プロジェクトの内容に加えて中国政

る。国全体で抱える債務の全体像が、分かりにくいとの指摘もなされるところ、AIIBがパキスタン案件をどのように取り扱っていくか、注目される。MDBs や MFIs からの融資の返済は二国間(バイラテラル)の ODA に優先され、だからこそ AIIB を含む MDBs や MFIs には、案件審査の際、より慎重さが求められる。

インドの近隣で海上交通の要衝にあるスリランカは、2018年6月まで AIIB の承認案件はないが、今後の審査予定案件は5件ある。うち3件は MDBs との協調案件で、2件は単独案件である。これらの取り上げがどうなるかも気になるところである。スリランカ、タジキスタン、ネパール、ラオス、グルジアのような、経済規模が比較的小さい国では、二国間ベースの債務が増加傾向にあるといわれるなかで、AIIB が、どのような融資姿勢で臨むのかが注目される。

3. 金立群 AIIB 総裁による業務報告

金総裁は、6月26日の総会で、各国総務に対する業務報告を行った¹⁵。新規メンバー国承認状況に続き¹⁶、AIIB の優先課題やその取り組み状況について、以下の通り4分野に分けて説明が行われた。

- ① 戦略及び業務方針の策定： 既に過去の理事会で、持続的なインフラ建設、国境を越えた接続性、民間資金活用を、AIIB の3つ優先戦略テーマとすることが決まっている¹⁷。現在、これを分野別に掘り下げている。そのうえで、2020年末までには AIIB 全体の戦略をとりまとめる。
- ② 投融资の拡大： 過去2年半で28件、約54億米ドルのプロジェクトを承認した。それらは12カ国に分散している。2018年は上半期に5件、計11.5億ドルの案件を承認し、下半期は25億から35億ドル分を追加承認する。低所得国において良質なプロジェクトを取り上げることが可能になるよう、取り組みを進めている。今後もプロジェクトの「質」を重視し、実施の順序を考慮し、効果的な事後モニタリングを行う。既存 MDBs とのパートナーシップを強化し、同時に独自案件を積み上げることで、業容拡大を図る。
- ③ 財務基盤の強化： 資本金の払い込みは順調に進み、2017年にはトリプル A の外部

府の意向も勘案しながら案件取り上げを検討する。

¹⁵ 総裁のスピーチ原稿は次の URL を参照。<https://www.aiib.org/en/about-aiib/governance/board-governors/content/index/download/proceedings-board-of-governors-June-2018.pdf>

¹⁶ この総会ではレバノンの加盟を承認し、承認国・地域は87となった。このうち正式加盟国は66カ国・地域であり(内訳は域内国・地域が43、域外国・地域が23)、残る21カ国は、今回承認されたレバノンを含めて加盟見込み国(Prospective members)となる(域内国・地域7、域外国・地域14)。

¹⁷ 金総裁によればこの3テーマは2016年末の理事会で決定された。

格付けを取得した。2018年の経費運営は順調であり、初の AIIB 債起債に向け既に準備を始めた¹⁸。

- ④ ガバナンスと組織の強化：効率的ガバナンスを目指し、説明責任に関するフレームワークを策定した。各委員会を設置して、内部管理体制の強化を図っている。経営陣と理事会との間での信頼関係を築きながら、率直かつ公平、かつ効率的な業務関係の構築を進めている。スタッフは現在 165 人で¹⁹、今後も質と量の両面で強化を図る。

金総裁は最後に、AIIB は妥協をせず努力を重ね、最高水準のガバナンスを維持し、外部の高い評価とブランド力を勝ち取りたいとの抱負を語った。

4. おわりにかえて～今後のステップアップが見込まれる AIIB

AIIB 加盟国にはアジア諸国に加えて、欧米先進国が名を連ねる。また、現在の理事 12 人のうち域内国を代表する理事は 9 名で、残る 3 名は域外国を代表する理事となっている。最高経営陣 8 名は、付表 2 の通り明確な役割分担があつて、出身国籍は重要ではないものの、あえてそこに着目するとアジア太平洋州出身者が 4 名、欧州出身者が 4 名となっている。AIIB においては、欧州勢が一定の存在感を有している²⁰。

AIIB の創設が最初に提唱された頃は、中国が「一帯一路」構想を声高に宣伝し始めた時期と重なっており、AIIB は中国の意図と指示を受けて動く、同国の戦略ツールになるのではないかと懸念された。しかし、これまでの融資承認状況や、組織運営状況を見る限り、現実はそのような方向には向かっていない。既存の MDBs や MFIs と良好な関係を保ちながら、新しい MFIs の仲間として然（しか）るべき地位を占めたいとの考えだ。

中国側からみれば、欧州諸国や MDBs の支援を得ながらも、中国の主導により、国際基準に合致した新たな MFI が立ち上がることは、当然、荣誉あることである。しかし、実利に注目すれば、当初の期待とは異なり、AIIB は「使い勝手が悪い」金融機関になってしまったともいえる。そのようななかで現在の中国にとって最も使い勝手が良

¹⁸ シンガポールの総務より、2018 年下期までの発行に期待を寄せる発言があつた。資本金の払込みが続いているなかで、AIIB は慌てて資金を調達する必要はないが、経営陣は内部管理強化を含む様々な準備を行っており、2019 年 6 月の次回総会が、進捗報告を行うよい機会になるとみられる。

¹⁹ 1 年前は 100 人であり、この 1 年で約 1.6 倍に増えた。なお、ADB は約 3,000 人のスタッフを抱える。

²⁰ アレクサンダー副総裁は英国財務省で予算担当副大臣を務めた政治家である。AIIB では新規加盟国の承認や、総会、理事会の調整役を担い、スタートアップ段階の AIIB において重要な役割を果たしている。同副総裁は、AIIB が中国の「一帯一路」構想とは別の、独立した国際金融機関であることを強調しつつも、両者には共通のゴールがある点を率直に認めている。<https://www.telegraph.co.uk/news/world/china-wat-ch/business/danny-alexander-on-the-aiib/>

い金融機関は、中国輸出入銀行と中国国家開発銀行であろう。この2つの政府系金融機関は「一帯一路」構想の海外インフラ案件のファイナンスで、中心的役割を果たしている。しかし、情報開示が不十分で透明性が低い点が問題であり、今後、中国がこの点を改善することが期待される。

今年（2018年）後半以降、AIIBの最重要課題は初の起債を成功させることである。AIIBは、それに向けて準備を開始したという。いつ、どこの国際金融市場で、どのような証券会社を選択し、どのような通貨、金利、期間で起債を行うのかなど詳細は不明であるが、水面下では積極的な誘致合戦が行われていると推察される。いずれにせよ、この起債の成否はAIIBが2021年以降の成長段階²¹を迎えるうえで、極めて重要な試金石となるであろう。今後とも格付機関からの評価を下げないためには、保守的に投資案件を選別、審査し、モニタリング体制を作っていく必要があり、同時にリスク管理や内部管理にも手が抜けない。その一方で、AIIBは多くの加盟国を抱えており、途上国は、早期に投融資を通じてそのメリットを享受したいと考えている。そうした要望にAIIBはうまく応えていかねばならない。このように、安定運営と加盟国配慮という2つのニーズがあり、これらが二律背反とならないようにするためには、AIIB自身が努力すべきことはいままでもないが、AIIB主導国である中国が継続的かつ積極的な支援を行っていくことが不可欠とみられる。

来年の総会はルクセンブルクで開催される。その時AIIBがどのような発展をしているか、期待をしつつ、見守りたい。

以 上

²¹ 脚注4を参照。

付表1 AIIB 承認済み案件リスト (2018年7月末現在)

国名	承認日	セクター	案件種類	総コスト	AIIB融資	シンジケーション	期間	案件名
Tajikistan	2016 June	Transport	Road and Highways	106	28		15	Dushanbe Road Improve project
Bangladesh	2016 June	Energy	Power	262	165	単独	25	Distribution System Upgrade and expansion project
Pakistan	2016 June	Transport	Road and Highways	273	100		20	National motorway M-4 project
Indonesia	2016 June	Urban	Urban Transport, Waste Mgt, Water Supply	1,743	217		16.5	National Slum upgrading project
Pakistan	2016 Sept	Energy	Hydropower (世銀とのcofinance)	824	300		20	Tarbela 5 Hydropower Extension project
Myanmar	2016 Sept	Energy	Gas Turbine Power Plant	349	20			Mingyan power
Oman	2016 Dec	Transport	Port	353	265	単独	25	Duqm Port Commercial Terminal & Operational Zone Develop Project
Azerbaijan	2016 Dec	Energy	Oil & Gas	8,600	600		30	Trans Anatolian Natural Gas Pipeline project
Indonesia	2017 Mar	Urban	Infrastructure	406	100		10	Regional Infrastructure Development Fund Project
Indonesia	2017 Mar	Water	Water Resource Management	300	125		15.5	Dam Operational Project Phase II
Bangladesh	2017 Mar	Energy	N Gas Production & Expand Gas Pipeline	453	60		25	Natural Gas Infrastructure & Efficiency Improvement Project
India	2017 May	Energy	Power Transmission & Distribution	571	160		19	Andhra Pradesh 23x7 – Power For all
Georgia	2017 June	Transport	Road	315	114		25	Batumi Bypass Road Project
India	2017 June	Multi-sector	India Infrastructure Fund	750	150			India Infrastructure Fund
Tajikistan	2017 June	Energy	Water Hydropower	350	60		25	Nurek Hydropower Rehabilitation Project Phase 1
India	2017 July	Transport	Road	658	329	単独	13	Gujarat Rural Roads Project
Egypt	2017 Sept	Energy	Solar Photovoltaic Power	755	210			Round II Solar PV Feed-in Tariffs Program
India	2017 Sept	Energy	Power Generation 220MW	303	100		20	Transmission system strengthening Project
Asia	2017 Sept	Multi-sector	IFC Emerging Asia Fund	640	150			IFC Emerging Asia Fund
Philippines	2017 Sept	Water	Food Management 洪水対策	500	208		25	Metro manila Food Management Project
India	2017 Dec	Transport	Urban Rail	1,785	335		15	Bangalore Metro Rail Project
Oman	2017 Dec	Telecom	Fiber Broadband	467	239	単独		Broadband Infrastructure Project
China	2017 Dec	Energy	Natural Gas Distribution 石炭→ガス化	761	250	単独		Beijing Air Quality improve and Coal Replacement Project
Bangladesh	2018 Feb	Energy	Power Generation 220MW	271	60	単独		Bangladesh Bhola IPP
India	2018 Apr	Transport	Road	500	140		25	Madhya Pradesh Rural Connectivity Project
India	2018 June	Multi-sector	National Investment and Infrastructure Fund	600	100	単独	15	National Investment and Infrastructure Fund Phase I
Turkey	2018 June	Energy	Gas Storage	2,735	600		22.5	Tuz Golu Gas Storage Expansion Project
Indonesia	2018 June	Water/Irrigation	Irrigation	578	250		16	Strategic Irrigation Modernization and Urgent Rehabilitation Project
				26,209	5,434			

(注) 単独: 銀行はAIIBのみのケース、他に政府が出資、融資の場合は単独
(出所) AIIBホームページ、ADBホームページ

付表2 AIIBの現経営陣(2018年7月末現在)

AIIB経営陣(2018年7月末現在)

名前	役職	業務分担・人物背景
Mr. Jin Liqun (金立群)	総裁、理事会議長	<ul style="list-style-type: none"> ・初代総裁。 ・AIIB創設前の多国間調整段階から同行にかかわり、初代総裁に就任。理事会議長を兼務。中国財政部で20年間キャリアを積み、次官を経験。中国国際金融(CICC)総裁、中国投資(CIC)監査役会長、ソブリン・ウェルス・ファンド国際フォーラム会長、ADB副総裁、世界銀行中国代理理事などを歴任。北京外国語大卒。 ・中華人民共和国国籍。
Sir Danny Alexander	副総裁、コーポレート・セクレタリー	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンス全般、メンバー国(新規加入を含む)、総務会・理事会などの調整を担当。 ・英国キャメロン連立内閣で2010年から2015年まで財務省予算担当大臣を務める。オックスフォード大卒。2015年にナイトの爵位を得る。 ・英国国籍。
Mr. Thierry de Longuemar	副総裁、チーフ・ファイナンシャル・オフィサー(CFO)	<ul style="list-style-type: none"> ・財務戦略と方針の立案と実施を担当。経理・出納部門の監督役。 ・ADBとアフリカ開発銀行で出納官兼財務担当副総裁を歴任。欧州系の銀行や石油メジャーでの勤務経験もあり。仏エッセック・ビジネススクール卒。 ・フランス国籍。
Dr. D.J. Pandian	副総裁、チーフ・インベストメント・オフィサー(CIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・投資ポートフォリオ担当。ソブリン、ノンソブリン向けの貸出を監督。プロジェクト発掘から投資実行までを担当。 ・インドのインド行政職(IAS)として、エネルギー、インフラ、金融セクターの分野で、地方・中央レベルと国際関係で30年以上のキャリアを積む。地方政府はグジャラト州での経験が多い。マドラス大MBA取得。エネルギー安全保障の博士号取得。 ・インド国籍。
Mr. Joachim von Amsberg	副総裁、政策・戦略担当	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略と方針の立案を担当。国別優先順位、投資戦略立案、予算運営、経済分析などを担当。銀行の運営方針と実施状況の監督も担当。 ・世界銀行で開発金融担当副総裁を経験。プリティッシュコロンビア大でMBA取得。経済政策分析の博士号取得。ベルリン工業大学で工業エンジニアの修士号も持つ。 ・ドイツ国籍。
Dr. Luky Eko Wuryanto,	副総裁、チーフ・アドミニストレーション・オフィサー	<ul style="list-style-type: none"> ・人事、IT、総務、管理を担当。 ・インドネシア政府で20年間勤務、経済担当調整省で次官を経験。・バンドン工科大学工学部卒。コーネル大学で地域科学(regional science)の博士号取得。 ・インドネシア国籍。
Mr. Gerard Sanders	法務顧問(General Counsel)	<ul style="list-style-type: none"> ・総裁、及び関係統治機構に対して法務面でのアドバイスを行う。 ・国際農業開発基金(国連機関)の法務顧問、EBRDの副法務顧問を経験。ウェリントン、ワシントンDC、アムステルダムやロンドンで法律関係の仕事に従事。ウェリントン・ビクトリア大、ハーバードロースクール卒。ニュージーランド、オーストラリアのビクトリア州、英国、ウェールズで弁護士資格を持つ。 ・ニュージーランド国籍。
Mr. Martin Kimmig	チーフ・リスク管理・オフィサー(Chief Risk Officer)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業安定性と財務継続計画を担当。資本政策、財務及びレピュテーションリスクを含む財務以外のリスク管理、リスクに強い組織文化の育成等、リスク全般を担当。 ・世界銀行で24年間を過ごし、投資運用とリスクマネジメントに従事。直近はロック・クリーク・グループ(Rock Creek Group)の専務取締役として新興市場の株式を担当。フライブルグ大学にて経済学博士取得、CFA資格保持。 ・ドイツ国籍。

(出所) AIIBホームページより作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2018 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>